

入学試験関係

【本科】

● 推薦による選抜

- ・推薦入学願書受付 1月4日(火)～6日(木)
- ・推薦入試 1月14日(金)
- ・合格内定通知発送 1月20日(木)

● 学力検査による選抜

- ・願書受付 2月7日(月)～9日(水)
- ・学力入試 2月20日(日)
- ・合格発表 2月25日(金)

【専攻科】

● 社会人特別選抜(第2回)

- ・願書受付 11月29日(月)～12月3日(金)
- ・社会人入試 12月10日(金)
- ・合格発表 12月16日(木)

行事予定(11月から3月)

11月

- 5日(金) 磐陽祭(高専祭) 準備・前夜祭
- 6日(土) 磐陽祭(高専祭) 本祭(一般公開)
- 10日(水) 第3回TOEIC-IPテスト(3年・専1年)
- 13日(土)～14日(日) 全国高専デザインコンペティション2010(八戸市)
- 17日(水) 寮防災訓練
- 21日(日) 全国高専ロボットコンテスト全国大会2010(両国国技館)
- 24日(水) 後期中間試験開始(12月7日(火)まで)
- 24日(水) 専攻科特別セミナー発表会(2年)

12月

- 10日(金) 専攻科社会人入試
- 23日(木) 閉寮(10:00)
- 24日(金) 冬季休業開始(1月5日(水)まで)
- 28日(火) 学校閉鎖期間(1月3日(月)まで)

1月

- 5日(水) 開寮(13:00)
- 6日(木) 授業開始
- 13日(木) 学習到達度試験(コミ科除く3年生対象。他学年は臨時休業)
- 14日(金) 推薦入試(学生臨時休業)
- 26日(水) 専攻科特別研究中間発表会(1年)
- 29日(土) 卒業研究発表会(電気)

2月

- 2日(水) 学生総会
- 専攻科特別研究最終発表会(2年)
- 3日(木) 卒業研究発表会(機械)
- 7日(月) 後期期末試験開始(14日(月)まで)
- 20日(日) 学力入試
- 21日(月) 学生臨時休業
- 22日(火) 月曜振替授業
- 23日(水)～28日(月) 補講期間
- 25日(金) 卒業研究発表会(物質、建設)
- 28日(月) 卒業研究発表会(コミ)

3月

- 1日(火) 終業式
- 2日(水) 寮送別会
- 2日(水) 再試験期間(7日(月)まで)
- 9日(水) 専攻科特別研究公開発表会(2年)
- 17日(木) 卒業証書授与式
修了証書授与式
- 18日(金) 閉寮(10:00)

編集後記

今年度も早いもので半年が経過し、学校だよりを発行する時期となりました。

今号からは発行を例年の11月より1ヶ月程早めました。インターンシップ報告や夏季休業後の学校行事について、よりタイムリーに誌者の皆様にお伝えできるかと思います。

また、ホームページの更新作業も無事に終了いたしました。学生の活動・活躍についてはホームページにいち早く掲載いたしますので、こちらも是非ご覧下さい。

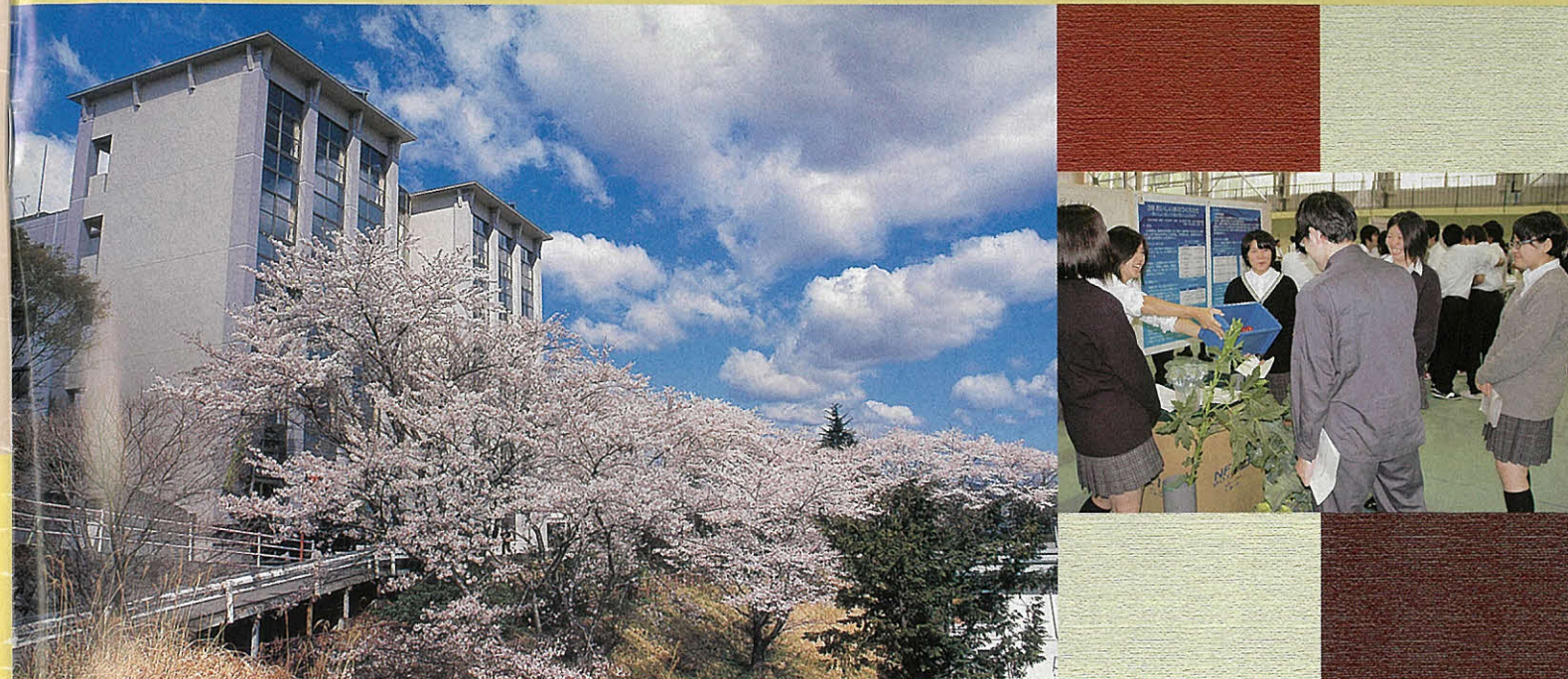
今回の「学校だより」にはアンケートを同封いたしました。今後さらに充実した誌面とするため、皆様のご意見を是非お寄せ下さい。

学校だより

Vol.

89

2010.10

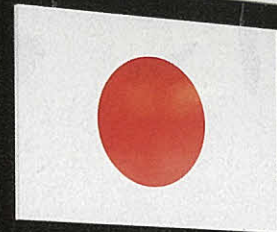


Contents

- | | |
|--------------------|-------------|
| 02 校長 入学式辞 | 18 体験入学を終えて |
| 04 三主事・専攻科長あいさつ | 19 校内体育大会 |
| 06 各科の近況〔本科〕 | 20 部活動紹介 |
| 08 各科の近況〔専攻科〕 | 22 学生の活躍 |
| 09 インターンシップ報告〔本科〕 | 27 事務部紹介 |
| 14 インターンシップ報告〔専攻科〕 | 28 新任教員紹介 |
| 16 ミニ研究発表会 | 30 とびっくす |



祝 福島工業高等専門学校入学式



第49回 入学式

Entrance Ceremony

式次第
一 開式のことは
一 国歌斉唱
一 入学許可
一 校長式辞
一 入学者宣誓
一 学級担任紹介
一 祝歌演奏
一 閉式のことは



式 辞

学校長 奈良 宏 一

新入学生212名、留学生3名を含む編入学生7名、専攻科生34名の皆様の福島高専へのご入学、誠にありがとうございます。また、ご列席の保護者の皆様、難しい試験を突破してのお子様のご入学、大変ありがとうございます。

例年になく雪の日が多かった冬が過ぎ、暖かい風に春の到来を感じる、本日、今にも開花しそうに蕾が膨らんだ本校構内の桜のもとで、多数の新入学生諸君を福島高専に迎えることができました。教職員、在校生一同、大変喜ばしく存じております。

皆様が入学される福島高専は、設立後、48年間に、およそ6,700人の創造性と実践性を併せ持つ技術者を産業界に送り出してきました。卒業生はさまざまな産業分野で活躍していて、社会で高く評価されています。

福島高専では、皆さんが勉強するにあたり、教育理念、学習・教育目標、養成する人材像、卒業時に身につけるべき能力などをきめ細かく定めています。

本校の教育理念の第1は「広く豊かな教養と人間力の育成」です。本日、入学した皆さんの多くは、将来、技術者となります。技術者は、自分は何をすれば良いのか、何をすればいけないかを判断できるだけの教養と倫理観を身につけている必要があります。本校の教育理念の第1は、技術以前に、幅広い教養と人間力を養うということです。

教育理念の第2は「しっかりした基礎力に基づく創造性と実践性の育成」です。日本が世界で工業立国を維持していくためには、優れた人材と優れた技術力によって新しい技術を創造し続けていかねばなりません。福島高専では、専門基礎力と実践的実験・実習を重視して、皆さんに、創造性と実践性を兼ね備えたイノベーションを起こしうる技術者に育ててもらいたいと思っています。これが教育理念の第2です。

第3は「国際性とコミュニケーション能力の育成」です。グローバル化した社会で、異なった環境に住む人々の考え方を理解したうえで、相手に尊敬の念を抱きながら情報交換できるだけの知識と教養を身につけていただくのが、教育理念の第3です。このような教育理念の下に6項目の学習・教育目標を定め、さらに、個々の目標の具体的な項目を掲げています。6項目の能力の一つ一つが身についたかどうかを半期ごとにチェックシートで確認しながら勉強してもらっています。

さて、これからの5年間、皆さんは次の4つの点を念頭において勉強して下さい。

まず、第1に、学校で定められた規則・規律を守り、皆が学校で快適に生活できるように自律的に努力して下さい。第2に、授業で教えてもらうという発想ではなく、自ら疑問を持ち、調べ、わからないところを授業で質問して確認する姿勢を保って下さい。皆さんの質問に対しては、先生は答を教えてくれるのではなく、何をどのように勉強すればわかるようになるかを教えてくれるはずで。これからは、自ら能動的に学ぶ姿勢が求められます。第3に、課外活動を楽しんで下さい。文化部やスポーツ部に所属し、集団や組織での活動能力を身につけて下さい。第4に、何でも語り合える友人を作して下さい。クラブ活動や友人によって皆さんの人間力が育かれます。

福島高専は、皆さんに、卒業後のさまざまな進路を提供しています。5年間の課程を終えて準学士の称号をもって就職することもできますし、本校の専攻科に進み、大学卒と同じ学士の学位を得ることもできます。また、大学の3年生への編入学への道、高専卒業生のための大学である技術科学大学へ進学して修士または博士までの工学一貫教育をうける道もあります。本校では、ここ数年は、卒業生のおおよそ半数が国立大学などに進学し、半数が就職しています。普段から、保護者と相談して自分が進む道の先を見据えながら、夢と希望を持って、これからの勉学に励んで下さい。

次に、専攻科への入学生諸君、諸君は、本科5年間で修得したことを基礎に、さらに高度な基礎科目と専門科目を学ぶことになります。専攻科生として恥ずかしくないよう十分な知識と教養を身につけ、また、後輩の良き手本となるように日頃の勉学に励んで下さい。工業技術のシステム化、高度化、グローバル化によって、最近の産業分野では、修士レベルの能力が要請されるようになってきています。大学院への進学など、将来の自分の進路を今から考えて、計画的に勉強してください。

最後に、新入学生諸君全員には、本校を巣立つまでに、本校の教育理念にある人間力、創造力、実践力、コミュニケーション能力を身につけられるよう、また、日々健康に気をつけながら、勉強努力し、大きく成長して、社会に、大学に、大学院に進んでいけるよう祈念して式辞と致します。



高専と自身の過去・現在・将来

教務主事 根 岸 嘉 和

本校は再来年度50周年を迎えますが、創立当初の「即戦力となる中堅技術者の養成」から、「創造性を備えた高度実践技術者の輩出」へと、時代の要請に応える形で高専の使命も変化してきています。

自身の過去を思うと、高校と大学の両方の役割を果たさなければならない高専教員の宿命として、常に「どうあるべきか」、「何をやるべきか」を考え続けて来た30有余年であつた気がします。

現在、高専は独法の国立高専機構に統合され「高度化・個性化・活性化」を目指した協力と競争の時代ですが、この夏、長岡での全国高専教育フォーラム（本校は「プロジェクト研究集会」を主管）と同時に開催された、初の全国高専教務主事会議において、将来に向けた高専機構の取組に関し、概要の提示と協議がなされ、コース制等の学科再編の推進、課程修了認定基準・単位制加味の度合い等における、各高専の独自性・裁量の大幅な拡大の方向が再確認されました。

教務主事4年目の最終年で、学生主事時代6年と合わせ、主事の挨拶文もこれが最後になりますが、任期終了後の自身の研究・教育の充実と、その後の将来に期待しつつ、残り半年の職務にラストスパートをかけている毎日です。



生活指導に関する保護者協力の必要性

学生主事 西 山 公 紀

様々な学生支援と共に、生活指導は学生委員会の重要な役割の一つです。毎日交代で、委員の先生方が校内外を指導巡回しております。その中で、特に指導件数の多いものが頭髪変色、服装、携帯電話使用等の違反です。本校では、これら

を飲酒喫煙、交通違反等とは区別し、マナーの問題として指導を行っておりますが、有効な手立てがなく、対応に苦慮しております。

頭髪変色は特定の学生が繰り返し指導を受けるケースが多く、一度変色するとダメージが残りますので注意が必要です。また、女子学生では極端なミニスカートが問題となっております。マナーの観点から、他人に不快感を与え、学生としての品位を損なう極端な服装には指導が必要となります。女性の健康や防犯の観点からも、女子学生対象の講習会を実施しておりますが、学生の自覚とともに家庭での教育（しつけ）の問題と考えますので、保護者各位のご協力を切にお願いいたします。



寮の近況報告

寮務主事 鳥 居 孝 栄

今年度から新たに寮務主事を務めております鳥居です。昨年度後半、若葉寮を改修しました。完成したのが3月末で、4月当初は、電気系統のトラブルなどもありましたが、しばらくして軌道に乗ってきました。洗面所など水回りが新しくなり、常時お湯が使えるようになりました。また、若葉寮監室は広くなり、男女共用のスペースとして、寮生との協議会や面談指導などに活用されています。

生活環境・施設設備の整備改善は今年度も進めていきます。インターネットと電話の整備、1階の部屋の除湿機設置、男子浴室脱衣所の改修などを進めていく予定です。

また今年度から、長期休業中に、滞在の目的が了承されれば、寮の自室に滞在できる「特別在寮」が実施されることになりました。今年初めての実施なので、問題点も出てくるかもしれませんが、実施がうまくいくように努力していきたいと考えております。



専攻科長あいさつ

専攻科長 大 槻 正 伸

今年度から専攻科運営を担当しております。よろしくお願い致します。

まず今年度の主な行事等について報告致します。4月に34名の1年生が入学し、26名の2年生と合わせ、現在60名の専攻科生が勉学、研究に勤しんでおります。

5～6月に推薦および学力入試があり合格者が決定しております。特にこのところ各学科で非常に優秀な学生が専攻科進学を希望しておりうれしいかぎりです。

8月には専攻科生全員が特別研究紹介パネルを作成し専攻科棟に展示しました。夏からは1年生はインターンシップに行き、10月にその報告会を行い、さらに特別研究を進めます。2年生は9月に学位申請書類提出、10月に特別研究の第3回発表会、12月に学位試験と重要な行事が続きます。このように、学生も教員も気を抜けない日々が続きますが、学生が充実して勉強・研究できる環境作りの努力をしていきたいと考えております。またこのような日常の業務ももちろん重要ですが、さらに将来の専攻科のよりよい方向を模索していきたいと考えております。



一般教科の近況

一般教科長 鈴木 三 男

一般教科では、学生が充実した高専生活を送れるように、特に低学年の生活指導と学習指導に力を入れています。指導を通じて、学生の「自立・「自律」の精神を育むことが重要であり、これからも保護者方々のご理解とご協力をお願いします。

さて科内では長年に渡って本校のためにご尽力頂きました根本信行先生（物理）、山野和一先生（数学）の2人の先生方が定年退職されました。在職中は両先生ともに学生主事・寮務主事を歴任され、情熱をもって学生指導に取り組まれました。我々もその中で多くの事を学ばせて頂きましたが、先生方との貴重な経験をこれからの学生指導に少しでも生かしていけたらと考えています。

また2人の先生方の後任には、この4月より磯上信二先生（物理）、馬場蔵人先生（数学）が着任されました。両先生にはできるだけ多くの学生と関わりながら、教育の現場の「楽しさ」をまた人を育てる「難しさ」の経験を重ねて、基礎教育を携る本校一般教科の重要性を感じてもらえればと思っています。



機械工学科の近況

機械工学科長 渡 辺 敏 夫

昨年度、新教育GP「異学年協働によるループ型創造性実践教育」が採択され、それに伴うプロジェクト担当教員として今年度、山下正英先生をお迎えしました。このGPは昨年度から3年間の予定で実施されています。新しい観点からモノづくり教育をとらえて、学生同士の学年をまたぐ絆を深めながら、より効果の高いモノづくり教育を目指すもので、これからの成果が期待されます。

今年の機械工学科の進路状況は、5年生43名在籍して内28名が就職の内定を受け、12名が大学への編入、専攻科への入学が決まっています。3名が未定ですがまもなく決まることと思います。今年の求人状況は例年通り順調で、それぞれの希望する進路先に決まりました。このように順調な進路先の決定は、高専の目的意識を持たせる実践教育が、社会に受け入れられているためではないかと思っています。

機械工学科では、最近モノづくりに係わる設備や各種の実験設備が相次いで更新あるいは新設されて、最先端の設備で教育や研究ができるようになりました。これらの設備を有効に活用して、将来世の中に役立つ人材を育てよう、全教職員と連携を取りながら努力していきたいと思っています。



電気工学科の近況

電気工学科長 鈴木 晴 彦

昨年度、電気工学科棟は耐震補強を中心とした改修工事が行われ、ほぼ1年間、仮の実験室や研究室での生活となり、学生と教職員は不自由な毎日を過ごしてきました。今年3月、ようやく改修整備された新電気工学科棟への引越しとなり、4月からは、環境の整ったなかで、再び実験・実習、研究が取り組めるようになりました。また同じく4月より、新任教員として植英規先生を迎えることになりました。植先生は本校電気工学科を平成

10年3月に卒業した第32期生で、着任直前まで企業にて勤務されていました。既に4月からは低学年の電気製図と工学実験、および4年生の創作実習を担当し、本校卒業生である強みと企業経験をもって活躍されています。さて、5年生にとっては新たな環境での卒業研究とともに、就職・進学活動が始まりました。就職氷河期といわれ本学科にも多少の影響はありますが、現在、就職希望者のほとんどが内定を得ることができました。また進学希望者もその進路を概ね決定しております。今後は卒業に向けて学習・研究に邁進するものと期待しております。



物質工学科の近況

物質工学科長 天 野 仁 司

今年度の物質工学科では、長年にわたり高分子化学系の科目をご担当になり、本校の教育・研究にご尽力いただいた井上和人先生がご退職になりました。その功績に心からお礼を申し上げたいと思います。新しいスタッフとしましては、4月より車田研一先生（化学工学）を横浜国立大学から、また10月より山内紀子先生（高分子材料工学）を東北大学からお迎えして、新体制での教育・研究活動を実施しています。

近年は、一部の入学者に精神面の脆弱性や、技術者として重要な探究心の不足が見られ、指導の工夫が求められる場面も増えました。その一方で優秀な中学生の物質工学科への入学志望傾向が強まり、昨年度は、3年生を対象とする全国高専共通の数学および物理の学力試験においても、物質工学系学科の最上位に位置するなど、本学科への期待と、学生の努力の成果が見られました。また、就職・進学においても、この不況の中にありながら、高校や大学とは一線を画す良好な結果を得ております。これは、卒業生諸君の努力による、企業と本学科の信頼関係の賜物であり、今後も教職員一同、社会から必要とされる人材の育成にあたりたいと考えています。



建設環境工学科の近況

建設環境工学科長 金 子 研 一

4月より、教員交流の一貫で、長岡技術科学大学より高橋一義先生を迎えて、10人の教員で教えています。一人足りない？そうなのです。田村先生が女の子を出産し、育児休暇にはいつているのです。またまたおめでたい話ですが、来春、高荒先生が正月明けから産休に入ります。

女子学生に人気の学科ですが、今年も就職率が良く、5月には国立印刷局、NTTインフラなどへ希望者全員が決まりました。男子学生も好調で、6月までにJR東海、NEXCO東日本など公務員志望を除く全員が決まっています。西松、竹中などゼネコンへも決まり、政府の「新卒者雇用政策」が嘘のようです。

大学への編入も成績が良く、北大、千葉大など国立大学へ順調に決まっています。学生たちも将来の進路と希望に燃え、勉学に励んでいます。

是非、お近くの中学生に、出口の素晴らしい学科であることをPRしていただきたいと思っています。



コミュニケーション情報学科の近況

コミュニケーション情報学科長 渡 部 美 紀 子

昨年度末、田淵義英先生、平塚力先生が転出、脇田淳一先生が退職されました。本年度10月より、経営学の松平好人先生、生産管理の成島康史先生をお迎えいたしました。新しい風を吹きいれていただき、本学科がますます活性化することを期待しております。

5年生の進路希望は、民間企業13名、公務員3名、進学24名となっています。昨今の不況を反映してか、進学希望者の多い年が続いています。

4年生も、大多数の学生が夏季休業中に実務研修を行いました。自分の進路を決めるにあたり、この経験がきっと役立つことでしょう。また、本年度は、高専機構の平成22年度「企業技術者等活用プログラム」の補助を受け、資格取得支援講座の一つとして簿記検定受験講座が開講されています。日商簿記検定の3級を目指す講座で、税理士の竹原半六先生にお越しいただき、3年生が受講しています。

各学年とも、進路や進学、また資格取得のために勉強しているところです。



機械・電気システム工学専攻の近況

機械・電気システム工学専攻長 鈴木 晴彦

平成22年度、機械・電気システム工学専攻へ12名の1年生が入学し、2年生11名と合わせ23名の在籍となりました。1年生は長期インターンシップを夏休み期間に実施し、県内の企業や研究機関、地方自治体をはじめ、神奈川や愛知県などの電気電子機器関連企業、また一部では京都大学の研究所における実習も行いました。また2年生は全員の進路が決定しました。それぞれの就職先は、東京電力（2名）、東芝、富士通、日立製作所、日新電機（京都）、日本原子力発電、日本原子力研究開発機構、また地元企業では白河オリンパス、小名浜製錬です。また9月になり、進学希望の学生が東京大学大学院への進学を決定しました。一方では、2年生に在籍する鈴木定太君は、電気学会産業応用部門大会でヤングエンジニア・ポスター・コンペティション優秀発表賞を受賞しました。これは専攻科における特別研究の成果が、国内の大学院学生の研究と同等に評価されたものと思われ、大変喜ばしいことです。今後も学生が切磋琢磨し、それぞれの特別研究を成就させてほしいと願っています。



物質・環境システム工学専攻の近況

物質・環境システム工学専攻長 山ノ内 正司

昨年に引き続き専攻長の任をいただきました。専攻科全体では入試を担当します。よろしくお願いいたします。

本年度の1年生から新しいカリキュラムが実施されています。物質系と建設系科目の融合と関連する科目の精選統合を図り単位数を削減するとともに、新たにエンジニアリングデザイン科目として「物質・環境システムデザイン演習」を創設しました。これは、種々の技術を統合して、必ずしも正解のない問題に取り組み、実現可能ないくつかの解を見つけ出し、計画・設計・評価を行うもので、工学教育の新しい流れともいえるものです。実施形態については模索の段階ですが、充実したものになるよう努力していきます。

専攻科が開設されて7年目を迎え、運営面ではかなり軌道に乗ってきているように感じます。また学生達も私達の期待に応え、特別研究の遂行、特別研究の発表会やインターンシップの報告会、学位授与申請書類の作成と、忙しい日々を送っています。



ビジネスコミュニケーション学専攻の近況

ビジネスコミュニケーション学専攻長 坪井 晋也

今年度は10名が入学し、新しい2年生の5名をくわえて、合計15名でビジネスコミュニケーション学専攻はスタートしました。

新入生の数が10名という倍増で、これまでどおり順調に運営されるのかどうか、当初はすこし心配がありました。しかし、新入生10名のまとまりはよく、また、一様に向上心を保っていることから、この先が楽しみに感じるほどとなっています。

2年生についても、5名のうち、民間企業を希望していた1名は、上場企業の内定をもらいました。残り4名のうち、公務員希望が2名、大学院進学希望が2名（うち1名はオーストラリア留学）で、各々、目標に向かって着々と準備をすすめているところです。学生の目標達成と同時に、今後ますます、専攻科が充実、発展するよう取り組んでいきたいと思っています。

安全のために 機械工学科4年 永井 一喜

インターンシップで私は東京電力第二原子力発電所に行きました。そこでは原子炉の見学や会議傍聴といった、普段では決して経験することのできない体験をすることができました。

その体験を通じて、私が特に感じたことは社員一人一人が安全に原子炉を運転するために全力を尽くしているということです。原子力発電所では取り扱いが危険な放射性物質を用いて発電を行っています。東京電力の社員は皆、自分がどれほど危険な物質を扱っているのか自覚しているため、万が一にも事故が起きないように細心の注意を払って仕事をしていました。そのことを特に感じたのは会議傍聴のときです。各部署の代表などが集まり行われた会議の内容は、現場で起きた不具合や事故に繋

がりそうなトラブルを未然に防ぐためにどのような対処を行うのか考えるというものでした。一つの問題に対して、それぞれの立場から見た意見を



次々に発言していく真剣な姿を見て、東京電力の社員の意識の高さを改めて感じることができました。それ以外にも、運転員の訓練の様子を見学することができました。



そこではトラブルが起きた場合の対処法について訓練していました。その訓練とは思えないほどの運転員の対応の早さに驚きとともに、このような人たちが働いているなら

原子力発電所といえども安全に制御できるだろうと思いました。

このインターンシップで、自分の仕事に責任と誇りを持つことの大切さを知りました。また、いまの私ではそのような場で働くには、まだまだ未熟だと感じました。これからの生活ではそのことを意識し、自分の仕事に誇りを持ち、全力を尽くせる人間になりたいと思いました。



憧れの航空業界 機械工学科4年 箱崎 英俊

私はIHI相馬事業所でインターンシップを体験させていただきました。IHIはジェットエンジンの国内シェアにおけるトップであり、そのIHI所有の工場の中でも相馬事業所は最先端に行く工場です。

インターンシップの内容は、初日に2週間の実習期間にこなすべき課題が与えられ、最終日にその結果報告をプレゼンテーションするといったことでした。私に与えられた課題は動翼の荷重がかかる部分に放電加工で被膜を施すIHI独自の加工機械の加工時間短縮でした。何を言ってるかわからないと思いますが私も何を言ってるかわかりませんでした。

しかし、なんと指導員の方に2週間付きっきりで教育を施していただくという好待遇のおかげで、放電加工に関する知識を持たなかった私でも、なんとか時間短縮に関する幾つかの意見を出すことが出来ました。そのなかの2、3のアイデアを実証していただき、結果として20%ほど加工時間を短縮することが出来たのです。

IHIはインターンシップでいく場所としてはとてもいいところだったと思います。働いている人たちに活気があり、とても働きやすい環境でした。与えられた課題

も簡単ではありませんでしたが、やりがいのあるとても勉強になる課題であり、これからの人生において大きなプラスになったと思います。特に指導員の方には親身になってもらい、仕事のことのみならず、相馬のこと、就活に関する体験談など様々なお話をしていただけたました。

いろいろなことがあった2週間でしたが、とても楽しくこれからの人生において貴重な経験が出来ました。IHIオススメです。



インターンシップってすばらしいね 電気工学科4年 関本 宏佑

私はインターンシップで東京電力株式会社福島第二原子力発電所(2F)に行き多くのことを学んできました。今回のインターンシップでは1日目から多くのことを学びました。全日程を振り返ってみましょうかね。

まず1日目、最初に驚いたのが、セキュリティが万全であることです。原子力発電所の敷地に入ることがこんなに困難なことだったのか…と思いました。

2日目はサイトシミュレータです。サイトシミュレータというのは、中央操作室で働くための訓練所のようなものです。そこでは、指差呼称を念頭に訓練をしていました。

3日目は不適合管理委員会議を傍聴しました。レベルの高い話が多く、理解できなかった話が多かったです。そこで2Fではヒューマンエラーゼロ(人身事故ゼロ)をめざしていることがわかりました。

4、5日目は、石倉さんという人にお世話になりました。石倉さんには中央操作室、原子炉建屋、タービン建



屋等に案内してくださり、説明してもらいました。この石倉さんという人は俺の理想の方で、普段は適当というかふざけている人なのに、仕事の時は眼の色変えて仕事するので、こんなエンジニアになりたいと思いました。また5日目には、8・29イベントがあり、ためになるお話をたくさん聞けました。

6日目は、防護管理教育をうけ、その内容について最後にテストしました。結果はこないのだろうか…。

7、8日目には1Fに行ってモーターを分解するなど実践的なことを多くやりました。

9日目も1Fにいき1Fについて学んできました。

10日目は、先輩社員との懇談ということで高専卒の先輩社員の方にお話をいただきました。

今回のインターンシップはとても楽しく、ためになる日々を過ごせてよかったと思っています。



光に触れた夏 電気工学科4年 二瓶 茂樹

この夏私は、甲府市にある山梨大学工学部情報研究室において、先生の指導の下8月23日から5日間インターンシップとして光ファイバを用いた高速デジタル伝送の基礎を学ばせて頂きました。

通信技術の基礎原理として、光ファイバを使用した糸電話の作成から実習が始まり、無線音声通信の元になった光糸電話のフォトフォンの作成および周波数特性評価を行い、自分たちが日々当たり前のように使っている音声通信の根本的な原理を理解することができました。また、光無線伝送装置用送受信回路の作成では、Ipodの出力信号をもとに設計し、自ら基板の上に半田付けをして送受信機を製作しました。再生した音楽が送信機側で光に変換され空間を伝わり、受信

機側の光センサーと処理回路を経て、スピーカーで再び音楽として再生された瞬間は、非常に感動しました。

さらに、大学の研究室および最先端実験設備を見学し、光を用いた通信の高速伝送技術の仕組みを実際に測定しました。通信技術の原理をより深く理解するには、波動論や微分方程式の解法などの物理の応用知識がとても重要であると再認識しました。

山梨大学での実習を通して、以前から興味があった通信技術の知識をより深められ、大学のより専門的な研究室の雰囲気を感じることができ、高専卒業後の進路を決定するにあたっての大きな参考になりました。

このインターンシップの熱い刺激を今後の高専での学習、生活に生かしていきたいと思います。



インターンシップを終えて 物質工学科4年 大井川 亮

私は、洗浄機メーカーである株式会社クレオに伺いました。実習は、主に埼玉県熊谷市にある羽生プラーツにて行いました。

実習期間は2週間で、1週目は化学系の開発実験を、2週目は機械系の工作実習を行いました。

1週目の開発実験では、クレオが販売している泡洗浄剤と泡吹付け機を用い、各組み合わせにおいて、良好な泡を作るために必要なデータの採取を行いました。泡洗浄剤を使用できる状態にするために原液を目的の濃度に希釈する工程では、高専で日頃行っている実験での経験を生かして、スムーズな作業を行うことができたと思います。

2週目の機械工作では、会社の夏祭りで使用するコンロ作りと自主制作を行いました。切削・溶接・溶断といった機械系の作業はほとんど経験がなく、正直、自分に務まるのだろうか不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、ひとつひとつの工作機械について役割からその使い方までしっかりと指導があり、機械科のインターンシップ生からアドバイスを受けて作業をしていく中で、

不安な気持ちもどこかへ吹き飛びました。自主制作でガス溶接を用いて作ったペン立てはなかなかの出来で、社員の皆様からも褒めていただき、とても嬉しかったです。

実習は、ここには書ききれないほど楽しい経験が詰まった2週間でした。しかしこれも、他高専のインターンシップ生との交流や社員の皆様の親切的な支えがあっ

たからこそだと思えます。こういった初めての場所に向かいの慣れない実習を通して、改めて、人とのつながりの大切さを学ぶことができました。

このように、学校の中だけでは学べないたくさんのことがありました。インターンシップは、高専生活を語る上で、きっと忘れることのできない最高の思い出となるでしょう。



インターンシップ 物質工学科4年 佐藤 愛璃奈



幼いころから環境に興味があり、有機材料と高分子の授業が好きな私は、広島県大竹市にある三菱レイヨンに行ってきました。しかし、行き先が簡単に決まったわけではありませんでした。自分で会社のHPからwebエントリーし、書類選考と東京本社での面接による選考を受けて採用をいただいたのです。

私が配属されたテーマは、「多孔質膜の脱溶剤方法の検討」で、実際に研究に携わり、最終日には、パワーポイントで報告会も行いました。仕事が終わった後にはテニス部の練習に混ぜていただき、仕事以外でもコミュニケーションをとることができました。週末には、各テーマに配属された実習生全員で観光に行きました。私以外は、大学院の修士の学生だったので、初めは不安と緊張でいっぱいでしたが優しく接していただき、鹿児島県か

ら北海道の方まで、仲良くなることができました。二週間生活した寮でも温かく迎えていただき、毎日を充実して過ごすことができました。歓迎会での貴重な就活のアドバイス、卓球やゲーム、バーベキュー、そしてプロ野球観戦など全てが大切な思い出になりました。

昨年までは、深く考えることもなく、ただ4年生になったら必ずインターンシップに行くものだと思っていました。しかし、実際に現場で働く社員の皆様の生の声を聞いたことは、今後就職活動をするにあたって貴重な経験だったと思います。1年生から3年生のみなさん。たかがインターンシップではありません。会社は大切な時間を、私たちのためにささげてくれるのです。自分のやりたいことが明確な人は、今から会社の情報を入手しておくと思いいます。



校外実習を終えて 建設環境工学科4年 石島 健太郎

私は、東日本高速道路株式会社（NEXCO東日本）木更津工事事務所で、10日間インターンシップを行いました。今回、インターンシップを通して自分の専門知識をより深く理解することを第一の目的として実習に臨みました。



NEXCO東日本は、主に高速道路の設計や工事の発注を業務とし、また高速道路の管理・維持も行い、より快適な高速道路を利用者に提供しています。

実習では数多くの現場を見学させて頂き、例えば実際に工事

や高速道路を監視している施設などを見学しました。工事をしている現場では環境的配慮がなされており、希少生物が見つかることを保存すべく対策がなされていました。学校で学んでいることが実際に現場で行われておりとても印象に残りました。また、現場ではコミュニケーションが大切であるとともに、1人1人の役割を確実に消化して行くことで、安全で効率の良い仕事ができるのだと実感しました。最終日には実習総括のために、会社内でプレゼンテーションによる報告会を行いました。多くの社員の方々に前にしての発表はとても緊張しましたが、大変良い体験をさせていただきました。

今回のインターンシップでは、当初の目的を達成できたことや多くの人々に関わったことで自分の視野が広がり、とても良い人生経験になりました。また、社会に出て働くということの厳しさも知ることができました。今回インターンシップでお世話になった木更津工事事務所の皆様には本当に感謝しています。ありがとうございます！

最後に来年インターンシップを迎える後輩のみなさん、もし道路の計画や設計に興味がある方がいましたらNEXCO東日本をお勧めします。僕のように寝坊して遅刻しないようにくれぐれも気をつけて下さい。

インターンシップを終えて 建設環境工学科4年 江尻 義史

私は、8月16日から8月30日までの15日間、神奈川県横浜にある独立行政法人港湾空港技術研究所にお世話になりました。私が配属された部署は海洋・水工部の耐波研究チームで、「津波漂流物対策に関する検討」という実習題目の下、インターンシップを行いました。

耐波研究チームとは、波の力により構造物がなぜ破壊・変形したのか、なぜ被害を受けたのかを様々な実験装置を使用し原因を究明します。それによって得られたデータを現地で設計や被災地などに反映して波の対策施設の妥当性を検討を行っているところです。

今回のインターンシップで私は主に実験データを基にしたグラフ作成と実験データの整理及び解析を担当しました。整理・解析をした結果は数値解析を行い津波対策物がどこまで耐えられるのか、効果はあるのか検討され現地の状況と照らし合われます。

インターンシップを無事に終え、実際

に社会人として働く方々を見て自分の知識の浅さや視野の狭さを改めて実感しました。同時に社会人として背負わなければならない責任の重さを感じました。休憩時間に研究官の方や実習を共にを行った大学生の方から進路や大学生活についていろいろとお話を伺うことができ、大変良かったと思います。これらの経験をこれからの学校生活や進路に役立てていきたいです。



自分と向き合う コミュニケーション情報学科4年 折笠 いくみ

私は8月18日から9月15日までの約1ヶ月間、日々の新聞社でインターンシップを行いました。

日々の新聞社は、いわきに関する質のいい情報を掘り起こし、いわきの良さを再確認するとともにいわきについて考えてもらうことを目的に、月に2回新聞を発行します。



今回のインターンシップでは8月31日発行の180号と9月15日発行の181号の新聞に向けて取材を行い、何本かの記事を書き上げました。インターンシップ期間中は、それだけでなく電話の対応なども行ってきましたが、何をすることも事前の指導はされず、まずは自分でやってみるのが基本でした。

日々の新聞では、新聞を発行するまでに2週間の期間を要します。はじめに企画を立て、取材をし、原稿を書いて紙面を組み、印刷所に出して印刷をし、完成した新聞を全員で袋詰めし、購読者へと発送します。約1ヵ月

の間に、新聞発行に行われる一連の作業を体験することができました。

今回のインターンシップでは、常に自分と向き合う日々が続きました。「自分らしい原稿を書いて」。原稿を書く中で何度も言われた言葉です。自分らしさとは何か、その答えはまだ出ていませんが、今回のインターンシップを通して自分自身と真剣に向き合うことができました。

インターンシップ最終日、「高専を卒業するまでに、これは誰にも負けないと自信をもって言えるものを見つけろ」という課題が出ました。卒業までに報告をしに行くのが約束です。インターンシップは終わりましたが、これをきっかけに、これからも自分自身と向き合っていきたいと考えています。



インターンシップを通して学んだこと コミュニケーション情報学科4年 菅野 晃司



僕は9月13日から17日までの5日間、いわき市役所の市民協働課（国際交流協会）という部署でインターンシップを行ってきました。なぜこの職場をインターンシップ先に選んだのかというと、社会がどのようなシステムで成り立っているのかということに興味があり実際にいわき市を管轄している市役所ではどのような業務が行われ、いかにして自分たちが快適に過ごしているのかということを知りたかったからです。

僕の行った市民協働課（国際交流協会）では日本に在住している外国人が分からない日本語や文化の違いなどで生活に困らないようにサポートしたり、バーベキューや料理教室などのイベントを定期的に企画し外国人の方にも多く参加してもらうことで国際交流を深めるというような業務を行っていました。ちょうど僕のインターンシップとイベントの日が重なっていたのでスタッフとして小名浜のサンマリーナで行われたバーベキューに参加させてもらい、いろんな国の外国人とふれあうことがで

きました。またアパートの住人に配布する注意事項を外国人のために英語に翻訳したり、来年のスケジュールに組み込まれるイベントを実際に企画し報告書を作成したりと職員たちの業務に近い仕事をさせていただきました。

5日間という短い期間でしたが市民のために実際に行われている業務を体験できたことは非常にいい経験になりました。このインターンシップでの経験を生かしてこれからの勉学に

励んでいきたいと思っています。最後にお忙しい中ご指導して下さいました市民協働課の皆様、本当にありがとうございました。



アイシン精機インターンシップ

機械・電気システム工学専攻1年 正木 俊幸

この夏、私は愛知県刈谷市にあるアイシン精機株式会社に、3週間のインターンシップを行いました。アイシン精機はエンジンやブレーキなどの自動車部品事業をはじめとして、ベッドやガスヒートポンプエアコンなどの住生活・エネルギー関連事業、電動車いすなどの福祉

関連事業などを手掛けている企業です。

最近の高級車には、電動アクティブスタビライザと呼ばれる、カーブなどの旋回時に車体の姿勢を水平に保つ装置が搭載されており、今回私が配属された第二電子系技術部では、その装置に適用されるブラシレスモータの磁場解析と実機の性能測定を行いました。

インターンシップを終えて学んだこと



についてですが、1つ目は、計画遂行の重要性です。朝の打ち合わせからその日一日のすべき事を確認して、常に先を見据えて業務に取り組むことの大切さを実感しました。2つ目は、企業はコミュニケーションの塊であるということです。企業では毎日のようにホウ・レン・ソウ（報告・連絡・相談）の繰り返しであるため、自分の意見を的確に伝えられるように努力することが大切であると思いました。

今回のインターンシップでは、工学に対する知識よりも、それ以上に社会人としてのマナーや心得を学んだように思いますし、またそれが最も大切なことであることを思い知らされたような気がします。現状、私自身まだまだこのような点で不十分なところがあるので、それらを身につけた後に社会に出たいと思います。



インターンシップを終えて

物質・環境システム工学専攻1年 長久保 勝大

私はニッソー樹脂株式会社に1ヶ月間実習を行ってきました。実習内容は脱酸素剤の評価についてです。“評価”とは具体的に外観の観察、脱酸素剤の寸法と重量の測定、包装紙の通気性測定、原料の組成分析、脱酸素能力測定など多岐にわたります。測定するサンプル数が多く、時間もかかることから、評価という項目だけで実習期間のほぼすべてを費やしました。原料の組成分析については、物質工学科2年のときに履修した「分析化学実験」において学習した実験手法が適用されており、学校で行う実験が実際の現場にも応用されていることを改めて感じました。しかし、実験の手順や原理をすっかり忘れていて、学校のテキストを職場に持ち込んで休憩時間に読み返したこともありました。実習を終えて、今回の実習がとてもためになり素晴らしいものであったと振り返ることが



できます。ところが、正直なところ実習当初は学校で無理やりやられる修了への通過点だと思って仕方なく取り組んでいました。

しかし、実際の仕事を与えられると自分の仕事は自分で片付けなければならないという責任感を持つようになりました。やがて、自分の仕事にやりがいや自主的に仕事を見つけ出し積極的に行動するようになりました。仕事に夢中になりすぎて熱中症になったこともありましたが（笑）。振り返ると、毎日が充実していて大変ながらも楽しく実習ができたと感じます。今回の実習を通して様々な貴重な体験をすることができました。この経験をこれからの実生活や研究などに役立てていきたいです。ニッソー樹脂株式会社の皆様、本当にありがとうございました。



私と薄君の4週間

ビジネスコミュニケーション学専攻1年 猪俣 伊祐

今回、私と薄君の2人は、特別研究の先生の紹介で、新常磐交通株式会社様（以下常磐交通）で4週間の実務研修をさせていただくこととなりました。2人は、よくある実務研修生のように、ひたすら4週間書類整理に終始するのと、暗澹たる気持ちで営業所内に入り、お世話になる乗合部の方々の話を聞きました。その話を聞くと、どうやらただの書類整理ではないらしく、なんと、常磐交通が運行しているいわき～福島線の高速バスの分析をやらせていただけることとなりました。

そしてなんと、翌日には実際にバスに乗りし調査を行ってほしいという指示が出ました。もはや我々の頭からは暗澹たる気持ちは姿を消し、代わりに仕事の重要さからくる重圧がのしかかってきました。

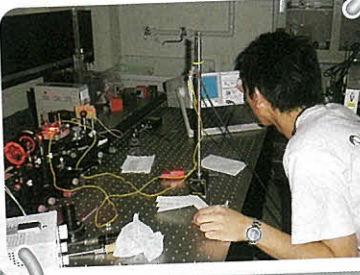
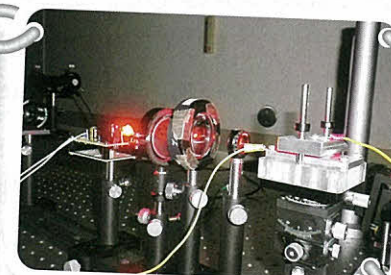
調査結果と乗合部の方から頂いた運行データから、問題となっている時間帯・曜日の便を割出しました。そし

てなんと、その結果を常磐交通の経営責任者である常務以下、部長・課長が勢ぞろいして前で発表することとなりました。薄君と私の緊張はピークに達しましたが、これもまた学生では経験できないいい経験になったと思います。

発表終了後は特別研究の先生の指示で平循環バスについての分析を行うことになりました。我々はアンケートを作成し、乗客の客層や要望から平循環バスの利便性を向上させるための試案を制作することにし、実際に平循環バスに乗りしアンケート配布を行いました。

回答されて戻ってきたアンケートを集計し、無事試案を作ることができました。

当初は4週間という長期間の実務研修なので、緩慢と時間が過ぎていくのではないだろうかと思いましたが、終わってみると非常に内容の濃い4週間でした。この実務研修で学んだことを生かしながら今後活動していきたいです。





ミニ研究発表会 教務主事補 高橋 章

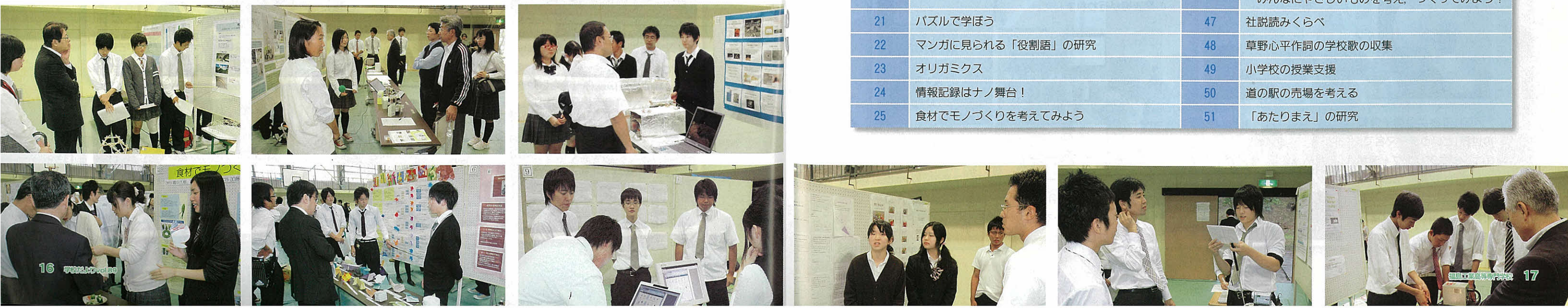
9月28日に第5回ミニ研究発表会を第一体育館で開催しました。当日はあいにくの雨にもかかわらず、多くの保護者の皆様にご来場いただきましてありがとうございました。

ミニ研究は、第2学年前期に全学科の学生が履修する科目です。この科目は、教員の設定したテーマに基づいて研究し、低学年のうちに「自分で調べる・考える・文章にまとめる・報告する・人前で発表する」という過程を経験（訓練）することで、個々の能力を高めることを目的に平成18年に導入されました。ミニ研究発表会は、その総仕上げの「人前で発表する」場ということになります。午前中の会場設営の後、午後に前半（発表番号奇数）と後半（偶数）の1時間20分間ずつ発表と質疑応答で行われ、この間に発表を聞いた教員が評価をしました。それぞれのテーマで5人以上の教員の評価を受けることを原則としております。発表はポスターを主として行われますが、ポスター作製や発表方法に工夫が見られ、また熱意ある声が響いて会場は熱気に溢れていました。

ミニ研究のテーマは、専門学科および一般教科の全教員がそれぞれの専門分野などから設定・公開し、学生が希望を出して、各教員に約5名ずつ配属して活動することになります。それゆえ、ミニ研究では、学科や専門の枠を越えた学習活動が展開され、福島高専の特色ある教育のひとつとなっています。そのようなこともあり、今年は沼津高専の教員が視察に訪れました。ミニ研究の活動は、前期中に30時間行うことになっておりますが、熱心なために夏休み中も活動して、規定時間以上行っている学生がほとんどです。また、本校の夏休み期間が、小学校と異なることを利用して、出身小学校に授業支援に行くテーマもあります。それを含めて、今年度は51テーマの研究が行われました。

2年生は、発表はもちろんのこと、会場設営から最後の片付けまで機敏に行動してくれました。ミニ研究発表会当日は、改めて本校学生の良さを再認識する日でもありました。保護者の皆様に感謝申し上げる次第です。

発表番号	テ　　マ	発表番号	テ　　マ
1	「走る」を科学する	26	時計について調べてみよう／作ってみよう
2	柔道の国際化について	27	モチベーションビデオを作ろう
3	英語と日本語の違いを捜そう	28	楽しくロボット機構を作ろう
4	直訳のできない表現を探そう！	29	レゴブロックを使った3次元CADの学習
5	折り紙を極める	30	ソーラークッカーの調査と試作について
6	福沢諭吉『学問のすゝめ』を通して「日本人の生き方」を考える	31	自動車のサスペンションの調査と模型製作について
7	英語でプレゼンテーション	32	低周波増幅回路の研究
8	ルービック・キューブ de 学ぼう	33	航空写真と衛星写真でいわきの廃線跡を調べてみよう
9	数式処理ソフト作成に挑戦してみよう	34	理論的な思考能力を身につける
10	ゲーム理論	35	色素増感太陽電池を作ろう
11	G I S（地理情報システム）を利用した身近な地域の地図情報化①平地区の地すべり危険箇所調査 ②滑津川の水質調査	36	生物・化学実験研究
12	G I S（地理情報システム）を利用した身近な地域の地図情報化③割れ窓理論に基づいた地域安全マップ④イタリアンレストランの立地と経営	37	知能ロボットの設計と製作
13	日本人英語学習者の受動態	38	陶紙で折紙 陶のKawasakiローズに挑戦してみる
14	I C T・マルチメディアの世界に触れよう！ ①マルチメディア観光学習WEBサイトの開発	39	おいしい水をプロデュース
15	I C T・マルチメディアの世界に触れよう！ ②ネットライブ中継による地域イベントの活性化	40	水耕栽培の夏野菜でおいしく屋上緑化
16	I C T・マルチメディアの世界に触れよう！ ③eラーニングを活用した資格試験教材の開発	41	竹（竹の増加とその対策）
17	落語を味わう ～名人芸の探求～	42	生物の不思議
18	裁判員制度について	43	相互依存形式構造の学習
19	惑星科学 火星、月面基地候補の空洞を探そう。	44	強い橋構造を創ろう
20	外国人の友達をつくろう	45	「いわき学」をつくる… いわきについてあれこれ考え、調べてみよう！
21	パズルで学ぼう	46	「ユニバーサルデザイン」をつくる… みんなにやさしいものを考え、つくってみよう！
22	マンガに見られる「役割語」の研究	47	社説読みくらべ
23	オリガミクス	48	草野心平作詞の学校歌の収集
24	情報記録はナノ舞台！	49	小学校の授業支援
25	食材でモノづくりを考えてみよう	50	道の駅の売場を考える
		51	「あたりまえ」の研究



平成22年度の一日体験入学は、8月7日（土）、8日（日）の一日半で実施されました。例年通り午前はいわき地区を、午後はいわき地区以外を対象としました。

ここ5年間の参加者は、平成17年度838人、18年度781人、19年度687人、20年度687人、21年度793人となっていました。今年度は過去5年間で最高の841人の参加を頂きました。中学生は昨年度より2人増の537人でしたが、保護者は45人増となり保護者の熱心さが伺われます。

参加者数	生徒	教諭	保護者	合計
いわき地区	386人	21人	151人	558人
いわき地区以外	151人	3人	129人	283人
合計	537人	24人	280人	841人

今年の各学科のデモ実験のテーマと内容等をご紹介します。

<機械工学科>

「君のモノづくりが世界を変える」というテーマ名で、①NC工作機械の紹介 ②学科紹介 ③ライントレーサーで遊ぼう ④市民に役立つモノづくりのデモ実験等が行われました。



<電気工学科>



「ふれてみよう電子情報の世界」というテーマ名で、①エンジニアリング・デザインをはじめ ②みんなの重い（想い）を支える非接触技術のデモ実験等が行われました。



<物質工学科>

「化学への正体ー楽しい化学の実験室ー」というテーマ名で、①無電解メッキの実験 ②欲しいものだけ取り出そうのデモ実験等が行われました。



<建設環境工学科>

「環境にやさしい建設技術」というテーマ名で、①飲み水のつくりかた～安心安全おいしい水 ②理想のまちって、どんなまち？リアルシムシティ&ブラインドウォーク実体験～のデモ実験等が行われました。



<コミュニケーション情報学科>

「Reach Your Dreams」というテーマ名で、①学科紹介ビデオ ②地域研究の紹介～道の駅四倉港～ ③英語劇の発表等が行われました。



<交流コーナー>

「本校からのメッセージ」というテーマ名で、①学校紹介コーナー ②入試相談コーナー ③ミニ研究紹介コーナー ④休憩コーナーを設け、休憩時間等に見学や相談ができるようにしました。



校内体育大会

9月30日（木）に校内体育大会が開催されました。

当日は雨が降ってしまい、予定していた競技をすべて行うことができませんでしたが、どの学年も白熱した試合を繰り広げました。

優勝学科〈学年別〉

- 1年 電気工学科
- 2年 電気工学科
- 3年 コミュニケーション情報学科
- 4年 電気工学科・建設環境工学科
- 5年 電気工学科

総合優勝 電気工学科

バドミントン部



東北地区 高専大会を振り返って

バドミントン部顧問 松 江 俊 一

ここ5～6年は各高専の実力が拮抗しており、今回の大会でもどの高専にも優勝するチャンスがありました。一昨年は優勝しましたが、昨年はチャンスがあったのにも関わらず優勝を逃したため、「今年こそは」という意気込みを持って1年間練習に励んできました。1回戦から接戦が繰り広げられ、1球ひと振りが勝敗の明暗を分ける緊迫した試合が続いたので、優勝した瞬間は本当にうれしかったです。女子は実力の差を見せつけられましたが、惜敗した試合もあり、その時の悔し涙がとても印象に残りました。

振り返ってみると、バドミントンに限らずどのスポーツも、最後に優勝するのは1チームまたは一人です。どの人もどこかで負けます。思うに、スポーツをやる意義は勝利に向かって仲間と共に頑張ることではありますが、もうひとつ大きな意義として「どんな風に負けたか」ではないでしょうか。それがその人のその後の人生の大きな糧になるように思います。今回優勝できたのも、前回惜敗した悔しさが大きなバネになりました。来年は全国大会で優勝するくらいの大きな目標をもって、これからも日々の練習に励んでほしいと願っています。

日本文化は「茶道」で学ぼう！ 茶華道部顧問 笠 井 哲

茶華道部は、現在実質茶道部として活動をしています。磐陽祭においては、例年磐陽会館前の芝生で、きれいな和服を身に纏った女子学生たちが茶会をしているので、ご覧になった方も多いと思います。発表の場は、これ一つだけではありません。私たちは、いわき学校茶道連盟に所属しています。連盟主催の合同発表会が、年2回、7月と1月に開かれ、そこに加盟している高校10校の茶道部員たちとともに、参加し茶会をしています。

では、日頃は何をしているのでしょうか？茶道裏千家の佐藤宗恵先生のご指導のもと、茶会を円滑に行うためのお菓子の出し方とお茶の点て方の稽古とともに、お客になった場合のお菓子の頂き方とお茶の飲み方も、基礎から繰り返し、丁寧に稽古をしています。今年は、本来の稽古日の水曜以外に、授業の関係で出られない学生のために、月曜も活動しています。部員が現在23名で、図書館3階の和室（6畳）では窮屈なのが悩みです。そこで月1回程度、合同発表会でも使用している、いわき市生涯学習プラザ5階の茶室を借りて、稽古をしています。

茶道を通して、礼儀作法を学ぶだけでなく、「もてなし」や「思いやり」といった心も身につくと思われま。さらに、「総合芸術」と称される茶道には、日本文化のエッセンスが集積しているので、将来必ず役に立つはず。特に国際人を目指す人はもちろん、どこに住んでもグローバル化した現代に生きる日本人にとって、外国の方に胸を張って「これが日本文化です」と具体的かつわかりやすく伝えることができるのは、茶道に勝るものはありません。

これを読んで、興味を持った方は、見学自由ですので和室を覗いてみるか、お近くの茶華道部員または顧問（高橋章先生が私）に、声をかけて頂ければ、幸いです。正座も、慣れてしまえば大丈夫です。随時お待ちしておりますので、よろしくお願いします。



茶華道部

東北地区高専体育大会の結果(平成22年度)

■東北地区大会— 鶴岡大会

■陸上競技 (男子)

学校対抗	(24年連続) 第1位
100m	高木 聖人 (3K)
200m	合津 弘貴 (2I)
400m	合津 弘貴 (2I)
1500m	遠藤 直弥 (2E)
5000m	遠藤 達也 (3C)
3000mSC	花角 優太 (3C)
4×100m R	花角 優太 (3C)
(佐藤・高木・吉田・合津)	第1位
4×400m R	第1位
(佐藤・高木・相沢(3I)・合津)	第1位
走高跳	宮原遼太郎 (1M)
走幅跳	佐藤 義剛 (5M)
三段跳	高木 聖人 (2K)
砲丸投	吉田 出 (4E)
円盤投	吉田 出 (4E)
やり投	高萩 滋光 (4M)
高萩 滋光 (4M)	第2位



■陸上競技 (女子)

学校対抗	第2位
100m	後藤映里佳 (1C)
200m	志賀ひかり (1I)
400m	志賀ひかり (1I)
800m	後藤映里佳 (1C)
1000mH	後藤映里佳 (1C)
4×100m R	(高倉・後藤・志賀・永久保)
走高跳	高倉亜紀子 (2K)
走幅跳	高倉亜紀子 (2K)
砲丸投	永久保美樹 (3I)
円盤投	諸橋由紀恵 (4I)
やり投	諸橋由紀恵 (4I)
松原 若菜 (3C)	第1位
松原 若菜 (3C)	第8位

■バスケットボール (男子)

予選リーグ	福島104-46 一関
福島97-66 仙台名取	
福島86-49 鶴岡	
福島64-85 八戸	
準決勝	
決勝	

■バスケットボール (女子)

準決勝	福島81-43 一関
決勝	福島65-75 八戸

■卓球 (男子)

団体戦	第1位
シングルス	渡辺 大樹 (4K)
ダブルス	佐藤 勇人 (3K)
三喜 (4M)	第2位
桑嶋 隆 (3M)	第3位
松本 知也 (3I)	ベスト8
吉田 圭佑 (5C)	ベスト8
中丸 智貴 (1E)	ベスト8

シングルス	江尻 義史 (4K)	2 回戦敗退
ダブルス	松本 知也	
	桑嶋 隆	第 2 位
〃	永井 一喜	
	渡辺 大樹	第 3 位

■卓球 (女子)

シングルス	小野 緑 (4K)	第 1 位
〃	安島 真理 (4I)	第 2 位
〃	滑川 侑佳 (1I)	第 3 位
〃	猪狩 美咲 (4C)	ベスト 4
ダブルス	猪狩 美咲 (4C)	第 1 位
〃	安島 恵理	第 2 位
	安島 真理	
	小野 緑	



■剣道 (男子)

団体		第6位
個人戦	遠藤 祐己 (2E)	ベスト8
	鈴木惣一朗 (3M)	ベスト16
	坂本 優真 (2K)	ベスト16
	渡邊 晃史 (3E)	2回戦敗退
	栗林 広延 (4M)	1回戦敗退
	小松 尚樹 (2M)	1回戦敗退
	高山 直也 (2K)	1回戦敗退



■剣道 (女子)

個人戦	柴田絵理香 (2I)	1回戦敗退
-----	------------	-------

■テニス (男子)

団体戦		第1位
シングルス	武田 章宏 (4K)	第1位
〃	菅野 晃司 (4I)	ベスト8
〃	片岡 智 (5E)	2回戦敗退
ダブルス	武田 章宏	
	菅野 晃司	第1位
〃	須田 拓馬 (4E)	
	大平 悠介 (4E)	ベスト8

■テニス (女子)

団体戦	第1位
シングルス	塚本 仁美 (4I)
吉田 美香 (3C)	第1位
横田 愛梨 (5C)	第3位
横田 愛梨 (5C)	1回戦敗退

ダブルス	松田 美穂 (41)	
	戸井田 陽 (31)	第2位
〃	横田 愛梨	
	塚本 仁美	第3位

■バドミントン (男子)

団体戦	第1位
シングルス	伊藤 勲信 (5K)
星野 佑一 (4M)	第3位
的場 駿介 (4E)	ベスト8
志賀 匠 (3M)	ベスト16
佐藤 太一 (2I)	2回戦敗退
的場 駿介 (4E)	2回戦敗退
志賀 匠 (3M)	第3位

ダブルス	伊藤 勲信	
	星野 佑一	ベスト 8
〃	大塩 智史	
	佐藤 太一	1 回戦敗退

■バドミントン (女子)

団体戦		第2位
シングルス	佐藤 春香 (4C)	第3位
〃	小塚 千晶 (3I)	1回戦敗退
〃	小椋 優奈 (2C)	1回戦敗退
〃	西山奈津美 (2I)	1回戦敗退
ダブルス	佐藤 春香	
	小塚 千晶	第3位
〃	西山奈津美	
	小椋 優奈	1回戦敗退

八戸大会

■バレーボール (男子)

予選リーグ	福島0-2 仙台名取	予選敗退
	福島1-2 鶴岡	



■バレーボール (女子)

予選リーグ	福島 0 - 2 仙台名取	第3位
	福島 2 - 0 鶴岡	
	福島 2 - 0 仙台広瀬	
準決勝	福島 0 - 2 秋田	

■ソフトテニス (男子)

団体戦					ベスト4
個人戦	高橋	憲正	(3I)		
	佐藤	伸耶	(1E)		第3位
〃	関根	大樹	(4K)		
	柴田	直樹	(2E)		ベスト8
〃	吉田	章大	(5E)		
	関本	宏佑	(4E)		2回戦敗退
〃	小田	公則	(4E)		
	柏原	伸也	(3E)		1回戦敗退



■ソフトテニス (女子)

個人戦	田中 朝美 (5I)	
	三浦 克恵 (4C)	第1位

■柔道 (男子)

団体戦	第5位
個人戦 (60kg級)	小島 勇人 (2M)
個人戦 (60kg級)	箱崎 英俊 (4M)
個人戦 (73kg級)	根本 新大 (2M)
個人戦 (73kg級)	安島 優成 (1M)
個人戦 (90kg級)	渡辺 亮 (3E)
個人戦 (90kg級)	山田 雄貴 (3E)

■柔道 (女子)

個人戦 (48kg級)	中藤 夏海 (3M)	第1位
個人戦 (52kg級)	渡部しおり (3C)	第3位



■硬式野球

福島3-7 秋田	1回戦敗退
----------	-------



■サッカー

■水泳 (男子)

学校対抗	第1位
100m自由形	斉藤 大明 (1I)
200m自由形	吉田 周平 (3M)
400m自由形	西間木悠輔 (4M)
800m自由形	斉藤 大明 (1I)
100m背泳ぎ	佐藤 祐樹 (2M)
200m背泳ぎ	北澤 春樹 (3M)
100m平泳ぎ	佐藤 祐樹 (2M)
200m平泳ぎ	北澤 春樹 (3M)
100mバタフライ	西間木悠輔 (4M)
200mバタフライ	若松 大介 (4E)
200m個人メドレー	若松 大介 (4E)
400mリレー	園子 智弘 (1E)
800mリレー	矢羽々寛和 (3M)
400mメドレーリレー	園子 智弘 (1E)
(佐藤・園子・山口・斉藤)	第1位

■水泳 (女子)

学校対抗	第2位
100m自由形	鈴木 姫花 (2I)
200m自由形	猪狩あゆみ (4M)
50m背泳ぎ	鈴木 姫花 (2I)
100m平泳ぎ	高橋 奈々 (4I)
200m平泳ぎ	高橋 奈々 (4I)
100mバタフライ	猪狩あゆみ (4M)
200mリレー	(鈴木・若松 (1I)・猪狩・高橋)
400mリレー	(鈴木・若松・猪狩・高橋)
200mメドレーリレー	(若松・高橋・鈴木・猪狩)

■全国大会—

■陸上競技 (男子)

富山高専（富山県総合運動公園 陸上競技場）		
学校対抗		第33位
100m	高木 聖人（3K）	予選敗退
〃	合津 弘貴（2I）	予選敗退
200m	合津 弘貴	予選敗退
1500m	遠藤 達也（3C）	予選敗退
4×100m R	（佐藤・高木・吉田（2K）・合津）	予選敗退
4×400m R	（佐藤・高木・吉田・久保田（1K））	第 7 位
走幅跳	佐藤 義剛（4M）	予選敗退
〃	高木 聖人	予選敗退
三段跳	佐藤 義剛	第 8 位
砲丸投	吉田 出（4E）	予選敗退
円盤投	吉田 出	予選敗退
やり投	佐藤 博紀（4M）	予選敗退
〃	高萩 滋光（4M）	予選敗退

■陸上競技 (女子)

100m	後藤映里佳 (1C)	予選敗退
走幅跳	高倉亜紀子 (2K)	予選敗退

■バスケットボール (男子)

岐阜高専 (岐阜メモリアルセンター)		
予選リーグ	福島68-86 鈴木	
(Aリーグ2位)	福島77-59 長野	

■卓球 (男子)

福井高専 (福井県営体育館)		
団体戦		第3位
シングルス	佐藤 勇人 (3K)	ベスト6
ダブルス	松本 知也 (3I)	
	桑嶋 隆 (3M)	ベスト6

■卓球 (女子)

シングルス	安島 真理 (4I)	第1位
〃	小野 緑 (4K)	第2位
ダブルス	安島 真理	
	小野 緑	第1位
〃	猪狩 美咲 (4C)	
	安島 恵理 (4I)	第2位

■テニス (男子)

石川高専 (石川県西部緑地公園テニスコート)		
団体戦		1回戦敗退
シングルス	武田 章宏 (4K)	1回戦敗退
ダブルス	武田 章宏	
	菅野 晃司 (4I)	1回戦敗退

■テニス (女子)

シングルス	塚本 仁美 (4I)	ベスト8
ダブルス	松田 美穂 (4I)	
	戸井田 陽 (3I)	ベスト8

■バドミントン (男子)

鈴鹿高専 (鈴鹿市立体育館)		
団体戦		1回戦敗退
1回戦	福島1-2 石川	

■ソフトテニス (男子)

富山高専 (高岡スポーツコア高岡市テニスコート)		
個人戦	高橋 憲正 (3I)	
	佐藤 伸耶 (1E)	1回戦敗退

■ソフトテニス (女子)

個人戦	田中 朝美 (5I)	
	三浦 克恵 (4C)	1回戦敗退

■柔道 (女子)

富山高専 (アルビス小杉総合体育センター)		
個人戦 (48kg級)	中藤 夏海 (3M)	第2位
個人戦 (52kg級)	渡部しおり (3C)	2回戦敗退

■水泳

沼津高専 (静岡県富士水泳場)		
学校対抗 (男子)		第2位
100m自由形	斉藤 大明 (1I)	予選敗退
200m自由形	斉藤 大明	予選敗退
400m自由形	佐藤 祐樹 (2M)	第1位
800m自由形	佐藤 祐樹	第1位
100mバタフライ	山口 修平 (3K)	第7位
200m個人メドレー	山口 修平	第7位
400mリレー	(佐藤・山口・吉田 (3M)・斉藤)	第3位
400mメドレーリレー	(佐藤・圓子 (1E)・山口・斉藤)	第4位
(女子)		
100m平泳ぎ	高橋 奈々 (4I)	第4位

■卓球 (女子)

団体戦		第3位
シングルス	小野 仁美 (3I)	ベスト16
〃	滑川 侑佳 (1I)	ベスト16
	(以上2名、東北大会出場)	
〃	今野小百合 (1K)	3回戦敗退
〃	金成 亜実 (2I)	2回戦敗退
ダブルス	小野 仁美	
	金成 亜実 (2I)	ベスト8
	(東北大会出場)	
〃	滑川 侑佳	
〃	今野小百合 (1K)	ベスト8

■剣道 (男子)

団体戦		2回戦敗退
-----	--	-------

■水泳 (男子)

50m自由形	吉田 周平 (3M)	予選敗退
〃	斉藤 大明 (1I)	予選敗退
100m自由形	吉田 周平	予選敗退
〃	斉藤 大明	予選敗退
200m自由形	猪狩 聖人 (1E)	予選敗退
400m自由形	佐藤 祐樹 (2M)	第3位
	(東北大会出場)	
〃	北澤 春樹 (3M)	予選敗退
1500m自由形	佐藤 祐樹 (2M)	第2位
	(東北大会出場)	
100m平泳ぎ	圓子 智弘 (1E)	予選敗退
200m平泳ぎ	圓子 智弘	失格
100mバタフライ	山口 修平 (3K)	予選敗退
〃	紺野 貴裕 (2C)	予選敗退
〃	猪狩 聖人 (1E)	予選敗退
200mバタフライ	紺野 貴裕	予選敗退
200m個人メドレー	山口 修平	予選敗退
400mリレー		予選敗退
800mリレー		予選敗退

■水泳 (女子)

200m自由形	鈴木 姫花 (2I)	予選敗退
---------	------------	------

100m背泳ぎ

鈴木 姫花	予選敗退
-------	------

■空手道 (男子)

団体戦		第3位
男子個人組手	洲崎 翔太 (3I)	ベスト16
〃	中村 晃太 (3M)	2回戦敗退
〃	会田 崇人 (3M)	1回戦敗退
〃	鶴田 基展 (3E)	1回戦敗退
男子個人形	会田 崇人	2回戦敗退
〃	中村 晃太	2回戦敗退
〃	鶴田 基展	1回戦敗退
〃	洲崎 翔太	1回戦敗退

■バドミントン (男子)

団体戦		1回戦敗退
シングルス	佐藤 太一 (2I)	2回戦敗退
〃	志賀 匠 (3M)	1回戦敗退
ダブルス	志賀 匠	
	佐藤 太一	2回戦敗退

■ボクシング

バンタム級	村上 和誠 (3M)	第1位
	(全国大会・東北大会出場)	

◎第92回全国高等学校野球選手権福島大会

1回戦	高専0-10 須賀川高校	1回戦敗退
-----	--------------	-------

◎第88回全国高等学校サッカー選手権大会福島県大会

1次大会		2回戦敗退
1回戦	高専1-0 あさか開成高校	
2回戦	高専1-2 福島明成高校	

◎第63回東北学生陸上競技選手権大会

男子走幅跳	佐藤 義剛 (5M)	予選敗退
男子三段跳	佐藤 義剛	予選敗退
男子円盤投	吉田 出 (4E)	予選敗退
男子やり投	高萩 滋光 (4M)	予選敗退
男子やり投	佐藤 博紀 (4M)	予選敗退

◎第65回東北高等学校陸上競技大会

男子走幅跳	高木 聖人 (3K)	第19位
-------	------------	------

◎第63回東北高等学校卓球選手権大会

男子シングルス	佐藤 勇人 (3K)	1回戦敗退
〃	松本 知也 (3I)	1回戦敗退
男子ダブルス	松本 知也	
	桑嶋 隆 (3M)	1回戦敗退
女子シングルス	小野 仁美 (3I)	2回戦敗退
〃	滑川 侑佳 (1I)	2回戦敗退
女子ダブルス	小野 仁美	
	金成 亜実 (2I)	2回戦敗退

◎第58回東北高等学校選手権水泳競技大会

男子400m自由形	佐藤 祐樹 (2M)	第4位
男子1500m自由形	佐藤 祐樹	第2位
	(全国大会出場)	

◎第64回東北高等学校ボクシング選手権大会

バンタム級	村上 和誠 (3M)	第3位
-------	------------	-----

◎全国高等学校総合体育大会水泳競技大会

男子1500m自由形	佐藤 祐樹	予選敗退
------------	-------	------

◎全国高等学校総合体育大会ボクシング競技大会

バンタム級	村上 和誠 (3M)	2回戦敗退
-------	------------	-------

◎第63回福島県総合体育大会 県大会

■陸上競技 (男子)

100m	高木 聖人 (3K)	予選敗退
〃	吉田 将大 (2K)	予選敗退
200m	合津 弘貴 (2I)	予選敗退
4×100m R		予選敗退
4×400m R		予選敗退

走幅跳	高木 聖人	予選敗退
〃	吉田 将大	予選敗退
三段跳	佐藤 義剛 (5M)	予選敗退
〃	鳥谷信太郎 (1K)	予選敗退
走高跳	宮原遼太郎 (1M)	予選敗退
円盤投	吉田 出 (5E)	予選敗退

■陸上競技 (女子)

砲丸投	永久保美樹 (3I)	予選敗退
やり投	永久保美樹	予選敗退

■バスケットボール (男子)

(高学年チーム)		2回戦敗退
1回戦	高専88-69 福大経済	
2回戦	高専58-87 泉崎クラブ	
(低学年チーム)		1回戦敗退
1回戦	高専52-110 田村高校	

■バレーボール (男子)

1回戦	高専2-1 大沼高校	
2回戦	高専0-2 福島工業高校	

■ソフトテニス (男子)

団体戦		1回戦敗退
個人戦	高橋 憲正 (3I)	
	佐藤 伸耶 (1E)	1回戦敗退

■テニス (男子)

【男子Ⅰ部】		
シングルス	渡辺 一貴 (3C)	2回戦敗退
〃	小竹森可廉 (3I)	2回戦敗退
〃	七海 祐命 (1I)	2回戦敗退
〃	蛭田 泰弘 (2E)	1回戦敗退
ダブルス	佐藤 正隆 (3C)	
	小竹森可廉	2回戦敗退
〃	七海 祐命	
〃	蛭田 泰弘	2回戦敗退
〃	渡辺 一貴	
	他校生徒	2回戦敗退

【男子Ⅱ部】

シングルス	松崎 本夢 (1M)	3回戦敗退
ダブルス	戸井田大樹 (1K)	
	松崎 本夢	ベスト16
〃	大塚 尚志 (1E)	
	新妻 祐希 (1C)	2回戦敗退

■テニス (女子)

【女子Ⅰ部】		
シングルス	吉田 美香 (3C)	2回戦敗退
【女子Ⅱ部】		
シングルス	山田 瑛子 (1K)	2回戦敗退
ダブルス	坂本 萌子 (1I)	
	高橋ちひろ (1I)	2回戦敗退
〃	大滝 真優 (1I)	
	鈴木 優花 (1C)	1回戦敗退

■卓球 (男子)

学校対抗		2回戦敗退
少年男子シングルス		
〃	桑嶋 隆 (3M)	4回戦敗退
〃	佐藤 勇人 (3K)	4回戦敗退
〃	松本 知也 (3I)	4回戦敗退
〃	石井 裕也 (3M)	3回戦敗退
〃	大浦 昌也 (2E)	2回戦敗退
〃	青木 勇斗 (1M)	2回戦敗退
〃	中丸 智貴 (1E)	2回戦敗退
〃	高萩 航 (3I)	1回戦敗退
成年男子シングルス一部		
〃	丹野 淳 (専1CK)	予選敗退
〃	永井 一喜 (4M)	予選敗退
成年男子シングルス二部		
〃	江尻 義史 (4K)	第3位
〃	吉田 圭佑 (5C)	予選敗退
〃	内田 権一 (4C)	予選敗退
〃	坂下聡一郎 (4C)	予選敗退
〃	吉田 貴郎 (4C)	予選敗退
〃	渡辺 大樹 (4K)	予選敗退

学生課

学生課には、教務係、学生支援係、寮務係、入試係、図書係の5係があり、学生課長以下14名の職員(再雇用・派遣職員含む)が所属しています。

配置場所については、業務が多岐にわたるため、学生課室、保健室、図書館および学寮と離れており、また、係毎に業務の繁忙期があるため、係員についてはグループ制を採用し、柔軟に対応しています。

学生課の業務は、学生さんの在学中のお世話はもちろん、本科の入学試験から卒業後の諸証明書の発行依頼等、末永くお付き合いいただくことになりますのでよろしくお願いします。

なお、学生課の窓口の開設時間は、午前8時から午後5時30分までです。

教務係 ☎46-0732

学生の入学から卒業までの学業をサポートします。



- 学生の成績処理及び進級、卒業に関すること
- 授業及び試験に関すること
- 入学、休学、転学、転科等の学籍異動に関すること
- 学生の校外実習、校外研修等に関すること
- 学生の諸証明の発行に関すること等

図書係 ☎46-0708

図書資料及び学術情報の提供を行います。



- 図書館の開設時間は、平日は、午前8時30分から午後8時まで、土曜日(試験期間中の日曜日を含む)は、午前9時から午後4時までです。
- 図書館資料の受入及び整理並びに保存に関すること
- 図書館資料の閲覧及び貸出し等利用に関すること等

学生支援係 ☎46-0734

学生のクラブ活動や健康維持についてサポートします。



- 学生の福利厚生に関すること
- 学生会その他学生団体に関すること
- 学生に対する奨学金に関すること
- 入学料、授業料免除及び微収猶予に関すること
- 学生の進路(進学、就職等)に関すること等

寮務係 ☎46-0737

寮生(留学生含む)の生活面についてサポートします。



- 学寮の管理及び運営に関すること
- 入寮及び退寮に関すること
- 寮生の福利厚生及び健康管理に関すること
- 学寮の宿日直に関すること
- その他学寮に関すること等

入試係 ☎46-0721

本科生、専攻科生、編入学生の入学試験を実施します。



- 学生の募集及び入学者の選抜に関すること
- 情報公開(入学者の選抜に関する事務に限る)に関すること
- 入学者の選抜方法の改善に関すること
- その他入学者試験に関すること等

保健室 ☎46-0863

健康診断、健康相談、保健指導、救急処置を行います。



- 学校内におけるケガや病気に関すること
- 保健衛生知識の普及啓発に関すること
- 学生相談室に関すること
- その他、保健に関すること等

卓球(女子)

学校対抗	第3位
少年女子シングルス	
小野 仁美 (31)	ベスト8
金成 亜実 (21)	4回戦敗退
滑川 侑佳 (11)	4回戦敗退
今野小百合 (1K)	3回戦敗退

成年女子シングルス一部

猪狩 美咲 (4C)	予選敗退
小野 緑 (4K)	予選敗退
安島 恵理 (4I)	予選敗退
安島 真理 (4I)	予選敗退

水泳(男子)

50m自由形	坂本 龍一 (5M)	予選敗退
〃	吉田 周平 (3M)	予選敗退
〃	山下 賢也 (1M)	予選敗退
〃	横山 佳輝 (1M)	予選敗退
〃	平木 義久 (1M)	予選敗退
〃	齐藤 大明 (1I)	予選敗退
100m自由形	小林 拓真 (5C)	予選敗退
〃	西間木悠輔 (4M)	予選敗退
〃	吉田 周平	予選敗退
〃	猪狩 聖人 (1E)	予選敗退
200m自由形	紺野 貴裕 (2C)	予選敗退

400m自由形	佐藤 祐樹 (2M)	第2位
〃	北澤 春樹 (3M)	予選敗退
50m背泳ぎ	吉田 周平	予選敗退
〃	関根 健恭 (1M)	予選敗退
100m背泳ぎ	若松 大介 (4E)	予選敗退
50m平泳ぎ	圓子 智弘 (1E)	予選敗退
〃	大金 祐哉 (5M)	棄権
100m平泳ぎ	矢羽々寛和 (3M)	予選敗退
〃	圓子 智弘	予選敗退
〃	増田伊扶己 (1K)	予選敗退
100mバタフライ	紺野 貴裕	予選敗退
〃	星 丈弘 (4K)	予選敗退
200m個人メドレー		
	山口 修平 (3K)	予選敗退
400mリレー		第14位
400mメドレーリレー		第12位

水泳(女子)

50m自由形	若松 真純 (1I)	予選敗退
	猪狩あゆみ (4M)	棄権
200m自由形	猪狩あゆみ	棄権
100m背泳ぎ	鈴木 姫花 (2I)	予選敗退
100m平泳ぎ	高橋 奈々 (4I)	予選敗退
200m個人メドレー		
	鈴木 姫花	予選敗退

各種大会等の結果

写真部

太平洋トライアスロンinいわきボランティアスタッフとしての撮影	参加
第35回全国高等学校総合文化祭写真部門プレ大会	参加
第35回関東信越地区高専文化発表会	参加
いわき地区高校写真連盟撮影会	参加
夜ノ森の桜撮影会	実施
ひたち国際大道芸撮影会	実施
夏井千本桜撮影会	実施
ひたちなか海浜公園、竜神峡での撮影会	実施
フラワーセンター、波立海岸撮影会	実施
写真甲子園予選 作品応募	実施
白水阿弥陀堂、ららミュウ撮影会	実施
いわき街中撮影会	実施
矢吹町大池ハス撮影会	実施
四倉ねぶた撮影会	実施
小川のじゃんがら念仏踊り大会撮影会	実施
アクアマリン撮影会	実施

吹奏楽部

第47回福島県吹奏楽コンクール	金賞
-----------------	----

将棋部

第46回全国高等学校将棋選手権大会 福島県大会		
個人戦	猪狩 直也 (3C)	ベスト 8
	芳賀 正幸 (3C)	ベスト 8
	阿部 直樹 (3E)	ベスト 16
	浦住 僚 (3C)	ベスト 16
	博多 大樹 (3E)	予選敗退
第23回全国高等学校将棋竜王戦 福島県大会		
個人戦	猪狩 直也 (3C)	ベスト 8
	博多 大樹 (3E)	ベスト 16
	芳賀 正幸 (3C)	ベスト 16
	阿部 直樹 (3E)	1 回戦敗退
第17回全国高等専門学校将棋大会		
団体戦		予選敗退
個人戦	長谷川 涼 (4E)	予選敗退
	永井 駿 (4I)	予選敗退
	阿部 直樹 (3E)	予選敗退
	浦住 僚 (3C)	予選敗退
	芳賀 正幸 (3C)	予選敗退

茶華道部

いわき学校茶道連盟 第29回合同発表会	参加
---------------------	----

山岳部

移ヶ岳登山	実施
磐梯山登山	実施

サイクリング部

春季合宿(川内村)	実施
夏季ツーリング(那須塩原)	延期

ラグビー部

いわき市7人制大会	参加
東北地区高専ラグビー講習会	参加

ソフトウェア研究部

第57回NHK杯全国高等学校放送コンテスト福島県大会いわき地区予選	吉田 怜楠 (2I)	予選敗退
(株)ユーハイム主催第29回ゲーテの詩朗読コンテスト	吉田 怜楠 (2I)	全国大会出場

エネルギー研究会

第12回全日本学生ソーラー&F Cカーチャンピオンシップ	総合19位
JISFC・WSR	第3位
JISFC・F2	

分子生物愛好会

第22回知能ロボットコンテスト2010	
堀越くまさんGemini	
マシン名「ダイエツト蛇腹」	
岩崎真歩 (3C)・桑野夏希 (3C)	1次予選敗退
堀越くまさんRainbow	
マシン名「ふみちゃん」	
小林 翠 (2C)・鈴木彩美 (2C)	
松崎優香 (2C)・笠原渚子 (2I)	2次予選敗退(アイディア倒れ賞)

弓道愛好会

・第56回福島県高等学校体育大会弓道競技県大会		
個人戦	田村 啓 (3K)	予選敗退
	四倉 弘一 (2M)	予選敗退
	林 咲季 (2C)	予選敗退
	前田美菜子 (2I)	予選敗退
・第63回福島県総合体育大会弓道競技		参加
・第32回全国高等専門学校通信弓道大会		参加
・第11回いわき明星大学賞学校弓道大会		参加



一般教科
磯上 慎二

一般教科・物理科、地元出身の磯上です。いわきを離れている間にすっかり取れたと喜んでいただけ、懐かしい半面、まだ安定しない滑舌を披露しては聞く人を和ませています。さて早くも半年が経ちましたが、企業との共同研究や大学生教育をしてきた立場から、学生の良い所を沢山見つけました。物理教育を通してそれらを伸ばし、社会で「勝てる」学生を一人でも多く育成したいと思います。宜しくお願い致します。



電気工学科
植 英規

福島高専を卒業後、大学編入、メーカー技術者を経て、電気工学科に着任しました。久しぶりの母校では、建物や制服は変わったものの、学生の皆さんの大変さ（レポートなど）は昔とあまり変わらないと思う一方で、それでも、それを乗り越えて大きく成長してほしいと思う毎日です。まだまだ未熟ではありますが、皆さんが自信と誇りを持って卒業できるように、少しでもお手伝いできればと思います。どうぞ宜しくお願いします。



物質工学科
車田 研一

本年4月に赴任しました車田と申します。よろしくお願い致します。これまでに年度の概ね半分が経過し、ここへ参るまでに頭の中でのある意味自分勝手なシミュレーションによって立てた目標と、実際に参ってからの日々の体感のなかから湧いてきた目標とを自己責任で縫い合わせ、毎日のアクションを各瞬間決断していくべき時期（フェイズ）になりました。真剣に「感じ」て、真剣に「動く」ためには疲れを溜めてはいけないことを痛感しています。まさに「気を遣わずに、体と頭を遣え。」だと実感します。努力いたします。



一般教科
馬場 蔵人

今年の4月に一般教科（数学）に採用されました馬場蔵人です。一昨年に東京理科大学大学院を卒業し、今年の3月まで同大学で奨励研究員をしていました。そこで私は、微分幾何学という数学の分野を研究しておりました。簡単に説明すると、球面などを例として抽象化した図形の研究です。

これまでに培った知識と経験を生かして、誠心誠意仕事に打ち込んでいき、伝統ある福島高専のさらなる発展に貢献していきたいと思います。



物質工学科
中村 重人

今年4月に、高専・両技科大間教員交流制度により、八戸高専から本校にまいりました。授業は機械工学科1年の化学、物質工学科の分析化学関係の科目を担当しています。専門分野は、無機分離化学で、液-液抽出を基礎とするレアメタルの分離に関する研究を行っています。今年度1年間だけですが、高専間の違いなどいろいろ学んでいきたいと思っています。どうぞ宜しくお願いいたします。



建設環境工学科
高橋 一義

高専・両技科大間教員交流制度を利用して、4月に長岡技科大から福島高専へ赴任して参りました。技科大には、全国の高専から学生が進学してきます。こちらに赴任するまで、高専の校風は全国どこでも似ていると思っておりました。しかし、この5ヶ月間で高専ごとに雰囲気が違うようだと思いつつあります。高専の教員や学生の現状を少しでも理解できるよう交流期間を過ごしたいと思います。交流期間が2年と短いですが、どうぞよろしくお願い申し上げます。



コミュニケーション情報学科
坪井 晋也

コミュニケーション情報学科の経営学系教員として、昨年の年末に赴任いたしました。経営学というと、なにか難しい理論とかをイメージする方が多いかもしれません。しかし、経営学は実学的な側面が重視される学問です。授業では事例研究を中心に、分かりやすく、かつ、できるだけ学生が興味をもっている企業、その業界を積極的にとりあげていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



事務部長
飯田 恭市

4月1日付けで筑波大学総務部総務課長から赴任いたしました。東北地区へは2回目の勤務で法人化前の平成12年10月から3年半、一関高専にお世話になりました。東京都出身の私にとって、温泉と山海の幸に恵まれた「いわき」はとても魅力的なところです。高専を取り巻く状況はますます厳しさを増していますが、その中で少しでも福島高専の役に立つよう頑張りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。



プロジェクト担当教員
山下 正英

大学教育推進プログラムの専任教員として、平成22年4月1日付けで長岡技術科学大学より赴任して参りました。東京都立工業高等専門学校を卒業後、長岡技術科学大学に進学し、現在は同大学の博士後期課程に在籍しております。授業は機械工学科2年生および3年生のモノづくりに関する実習を担当しております。学生とは楽しくモノづくりに取り組み、そしてモノづくりの楽しさをお伝えできればと思いますので、宜しくお願い致します。



総務課員
佐藤裕美子

4月1日付けで、岩手大学学務課から本校に赴任いたしました。出身は青森県でして、青森県・岩手県・福島県とどんどん南下してまいりました。4月に赴任してから半年が経ちますが、まだまだ分からないことだらけの毎日です。何にでも積極的に取り組んで、早く仕事をこなせるように頑張りたいと思います。色々ご迷惑をおかけするかと存じますが、よろしくお願いいたします。

「女子総合支援室」が発足しました



「女子総合支援室」は、本校女子学生、本校入学を目指す女子中学生、さらには本校で働く女子教職員に対する総合的な支援活動を行うことを目的に、昨年度発足しました。

「女子総合支援室」は室長1名、室員3名、非常勤講師1名で構成されておりましたが、さらに9月からはキャリアカウンセラー（非常勤）1名が参加して、支援活動にあたっています。

今年度前期は、女子学生に対するキャリア・進路支援のため、本校卒業生で結成した「O. G. アドバイザー」の発足会や、キャリア講演会を開催しました。

今後は、女子中学生や女子教職員に向けてさまざまな企画を実施する予定です。

第22回知能ロボットコンテスト2010に 分子生物学愛好会の知能ロボット研究グループが参加しました

6月19日と20日に仙台市科学館で行われました、第22回知能ロボットコンテスト2010に分子生物学愛好会の知能ロボット研究グループの2チームが参加しました。

3年生のチームは、チーム名：堀越くまさん Gemini、マシン名：ダイエット蛇腹（物質工学科3年 岩崎真歩、桑野夏希）で、試走台ではほぼパーフェクトでしたが、競技ではトラブルのため本領を発揮できませんでした。なお、このマシンは、競技後2台のみ選ばれるデモンストレーション走行に選ばれ、会場の注目を集めました。

2年生のチームは、チーム名：堀越くまさん Rainbow、マシン名：ふみちゃん（物質工学科2年 小林翠、鈴木彩美、松崎優香、コミュニケーション情報学科2年 笠原渚子）で、高湿度によるトラブルのため惜しくも二次予選9位（8位までが決勝進出）に終わりましたが、3機連携の分業システムのユニークさで注目を集め、「アイデア倒れ賞」を受賞しました。この受賞によって、来年の大会で必ず活躍すると決意したようです。



これらの2台のロボットは、改良の上、11月の磐陽祭で実演する予定ですので、実際にご覧になってください。

専攻科2年の鈴木定太さんが、 電気学会YPC優秀発表賞を受賞しました

本校専攻科、機械・電気システム工学専攻2年の鈴木定太さんが、8月24～26日の3日間、芝浦工業大学（東京・豊洲）で開催された、平成22年電気学会産業応用部門全国大会において、「ヤングエンジニア・ポスター・コンペティション（YPC）優秀発表賞」を受賞しました。また、YPC優秀発表賞受賞者の上位5名に与えられる「米国電気学会（IEEE）産業応用部門日本支部、2010ヤングエンジニア・コンペティション・アワード」も併せて受賞しました。今回の研究発表は、鈴木定太さんが専攻科特別研究で手掛けている「磁性材料片の変位によるバルク超電導体試料の磁気支持力の変化」というものでした。なお、鈴木定太さんは専攻科入学前の本科5年生のときからこのテーマで研究を開始し、2年前の本科5年生の夏、電気学会東北支部大会（日大・郡山）での発表においても、電気学会優秀論文発表賞（支部大会）を受賞しています。このように短期間で2度、延べ3つの賞を受賞することは極めて稀なことで、鈴木定太さんの研究に対する真摯な姿勢が結果として表れたものと思います。



いわきアリオス大ホールで「演劇鑑賞会」を開催しました



本校では6月19日（土）、学生会が主体となり、全学生を対象とした演劇鑑賞会をいわきアリオス大ホールで開催しました。劇団「東京演劇集団風」を招いて、演目「Touch 孤独から愛へ」の公演を行いました。

今回の演劇鑑賞会は、学生の自立支援や自己啓発を目的とした学生支援プログラムの1つです。演劇を通して、思春期に多くの若者たちが経験する悩みや心の成長を追体験させる

ることにより、学生たちに閉塞感や無気力からの脱却を促し、自分自身を見つめ直すきっかけを提供する試みです。また、生の舞台芸術に触れて得られる感動体験により、学生たちに生きる力と思いやりの心が醸成されることが期待できます。

学生支援プログラムではこの他にも、携帯・ネット安全教室や薬物乱用防止講習会など、学生に対してさまざまな講演会を開催しています。

